

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 27 日現在

機関番号：82611

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2015

課題番号：25871175

研究課題名(和文) 精神障がい者への就労支援現場で使用可能な評価法の開発と基礎的資料の整備

研究課題名(英文) Development of assessment tools and collecting of fundamental data which would be helpful for vocational services to support people with severe mental illness in community settings

研究代表者

佐藤 さやか (Sato, Sayaka)

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター・精神保健研究所 社会復帰研究部・室長

研究者番号：20450603

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は精神障害を対象とした就労場面における社会的スキル尺度(Social Skills Scale for Working place: SSS-W)と就労場面における認知機能尺度(Vocational Cognitive Rating Scale: VCRS日本語版)を作成することであった。研究終了時期までに全国11支援の利用者144名(男性52名、女性92名、平均年齢38.67±9.156歳)から協力を得た。SSS-Wについて因子分析の結果、4因子20項目の最終版が作成され、十分な内的整合性および併存的妥当性が示された。最終データ確定後、さらなる分析を実施予定である。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study were to development the assessment tools for social skills and cognitive function of people with schizophrenia at working scene. Subjects were 144 consumers (52 male, 92 female, 38.67±9.156 years old of average age) and their social functions were moderate (PANSS Positive Symptoms score 12.72±5.38, Negative Symptoms 14.52±6.12, General Psychopathology 30.22±10.73; GAF score 53.89±12.57. As a result of factor analysis, the final version of SSS-W was developed. This questionnaire has 20 items of four factors and sufficient internal consistency and concurrent validity of this scale were shown. Four factors were named "Communication for working place" (Cronbach's alpha .871), "Greeting and non-verbal communication" (.878), "Thoughtful communication" (.829), "Basic skills for communication" (.772) respectively. The further analysis should carry out after final date assembled.

研究分野：臨床心理学 精神科リハビリテーション 地域精神保健

キーワード：統合失調症 認知機能 対人スキル 就労支援 地域支援 企業における支援 精神科リハビリテーション 尺度開発

1. 研究開始当初の背景

平成 25 年 4 月 1 より障害者の法定雇用率（民間企業）が従来の 1.8%から 2.0%へ引き上げられた [1]。また雇用義務の対象について、現行の身体障害者と知的障害者に加え、平成 30 年 4 月をめぐりに精神障害者まで範囲を拡大することも閣議決定されている [2]。これらの政策提言は、従来からある精神障害をもつ当事者の「就労したい」という希望をふまえたものでもあり、今後、精神障害者に対する雇用ニーズが高まることが予想される。

ところで、統合失調症をもつ人の就労も含めた地域社会における転帰を予測する変数として認知機能が注目されて久しい。今日の統合失調症の転帰と認知機能との関連に関する議論の嚆矢は Green (1997) [3]であると考えられるが、最近同氏は知覚から就労を含む社会的なアウトカムまでを包括した新たな理論的枠組みを提出している [4]。この枠組みに沿って、従来就労支援の現場で実施されてきた支援技法および近年新たに提案されている支援技法をみると、要素的な認知機能から実際の就労、地域生活の支援まで、段階に応じて有効とされる支援技法を挙げるができる。しかし要素的認知機能と社会的認知については、統制された実験空間ないし検査場面で利用可能な評価法はあるものの、地域の支援機関や企業で利用可能な質問紙形式の評価法は見当たらない。今後、地域で就労支援を展開する中では簡易な質問紙形式の評価法のニーズも高まることが予想され、これらの開発には一定の意義があると考えられる。

2. 研究の目的

本研究の目的は下記の2つの評価尺度を開発することであった。

- ・精神障害を対象とした就労場面における社会的スキル尺度（仮称Social Skills Scale for Work place：以下SSS-W）
- ・精神障害を対象とした就労場面における認知機能尺度（The Vocational Cognitive Rating Scale（以下VCRS）日本語版）

3. 研究の方法

-対象（SSS-WおよびVCRS日本語版共通）

- 1) 収集協力機関（全国11機関）による支援を利用中のもの
- 2) ICD-10による診断が統合失調症、統合失調感情障害のもの
- 3) 20歳以上の65歳未満のもの

-研究デザイン

クロスセクショナルデザインおよび縦断研究による調査

-評価ツール

1)SSS-W

「企業で働くにあたって最低限必要な人づきあいのための行動」について支援者10名程度にグループインタビューを実施して得られた項目プール（SSS-W第一版、30項目、4件法）

KISS18、LASMI

対人関係領域

2)VCRS日本語版

バックトランスレーションと行ったVCRS日本語版第一版、BACS-J、LASMI労働領域

4. 研究成果

本研究終了時期の2016年3月までに全国11の支援機関を利用中の対象者144名（男性52名、女性92名、平均年齢38.67±9.156歳）から協力を得られた。対象者の精神症状の平均値はPANSS陽性症状得点が12.72±5.38、陰性症状得点14.52±6.12、総合精神病理得点が30.22±10.73、GAF得点が53.89±12.57であった。

1) SSS-W

SSS-W 第一版データについて最尤法プロマックス回転による因子分析を実施した。この結果、4因子20項目の最終版が作成された。4つの因子はその項目内容から「職場のコミュニケーション（説明、相談、質問、報告）（10項目）」、「あいさつとノンバーバルコミュニケーション（5項目）」、「配慮あるコミュニケーション（5項目）」、「基本的な会話スキル（5項目）」、それぞれの因子のCronbach's alphaは.871、.878、.829、.772で内的整合性は十分と考えられた（項目例は資料を参照）。またKISS18の各下位因子、LASMI対人関係領域得点とも有意な中程度の相関が得られており、併存的妥当性を有することが示唆された（表1）。現在、いくつかの機関から追跡データの到着を待っている状況であり、最終データが確定次第、再検査信頼性、1年後の就労転帰データを用いた予測的妥当性についても検討する予定である。

2) VCRS 日本語版

本尺度は米国版のローカライズ尺度であり、新たに因子分析は実施しない。今後、原版を参考に確認的因子分析を実施後、再検査信頼性、統合失調症の認知機能障害の程度を評価可能な神経心理検査でありBASC-Jおよび仕事の場での社会的機能を評価可能なLASMI労働領域得点との相関分析、1年後の就労転帰データを用いた予測的妥当性について検討する予定である。

また上記2尺度の信頼性、妥当性を検討後、1年後転帰について、いずれの機能（社会的機能、要素的認知機能）がより影響を及ぼしているかについても検討する予定である。

表1 職場における対人スキル尺度およびKiss18、LASMI労働領域得点の相関分析

	Kiss-18 問題解決	Kiss-18 トラブルの 処理	Kiss-18 コミュニケーション	LASMI 対人関係 領域得点
(N=144)				
職場のコミュニケーション (説明、相談、質問、報告)	.691 **	.530 **	.529 **	-.501 **
あいさつと ノンバーバルコミュニケーション	.495 **	.429 **	.482 **	-.351 **
配慮あるコミュニケーション	.332 **	.422 **	.110	-.386 **
基本的な会話スキル	.624 **	.423 **	.618 **	-.417 **

**p<.01

資料 (SSS-W 項目抜粋)

第一因子 (10 項目)

「職場のコミュニケーション(説明、相談、質問、報告)」(Cronbach's alpha=.871)
 ・体調について主観的な感覚だけでなく、客観的な事実も交えて説明する
 (例:「なんだか不安です」だけでなく「4時間ぐらいしか眠れなくて、いつもより仕事に時間がかかります」と説明する)
 ・業務についてわからないことがあった時、相談する
 ・依頼された作業をすぐに受けられない状況の時、「できない」と答えるだけでなく、その理由も説明する
 他 7 項目

第二因子 (5 項目)

「あいさつとノンバーバルコミュニケーション」(Cronbach's alpha=.878)
 ・業務の合間や終了時に「おつかれさまです」と声かけする
 ・出勤時や退勤時に自分から進んで挨拶する
 ・退勤時に「お先に失礼します」と声かけする
 他 2 項目

第三因子 (5 項目)

「配慮あるコミュニケーション」(Cronbach's alpha=.829)
 ・自分が話したい時には、相手の状況や都合に関係なく話す
 ・人間関係のトラブルや悩みについて、上司が同僚の都合や状況を考慮せず、頻繁に確認する
 ・会話の際、相手が話し終わるまで待つ
 他 2 項目

第四因子 (5 項目)

・周囲の人の雑談を聞く
 ・趣味や休日の過ごし方などなにげない話題について自分の話をする
 ・話題にあった表情や声の調子で話す
 他 2 項目

【引用文献】

[1]厚生労働省：民間企業の障害者雇用率を2.0%とすることなどの方針を了承
<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r985200002b4qy.html> 2012年8月7日 [2]厚生労働省：第48回労働政策審議会障害者雇用分科会議事録
<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r985200002elnq.html> 2012年8月7日 [3]Green MF: What are the functional consequences of neurocognitive deficits in schizophrenia? Am J Psychiatry, 153(3), pp321-330, 1996. [4]Green MF, Helleman G, Horan WP et al: From Perception to Functional Outcome in Schizophrenia: Modeling the Role of Ability and Motivation. Arch Gen Psychiatry, 1, 1-9, 2012.

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計9件)

佐藤さやか, 安西信雄: 対処様式・能力
 臨床精神医学, 44 増刊号, 59-65, 2015.
<http://arcmedium.co.jp/publication01.php>
佐藤さやか, 梅田典子, 岩田和彦他: 就労支援を認知機能から考える. 精神科治療学

査読無, 30 (11), 2015 .
<http://www.seiwa-pb.co.jp/search/bo01/bo0102/bn/30/11index.html>
佐藤さやか, 岩田和彦, 古川俊一他:
Thinking Skills for Work ~ Cogpack を用いた認知機能リハビリテーション ~ . 精神医学, 査読無, 57 : 733-742, 2015 .
<http://www.igaku-shoin.co.jp/journalDetail.do?journal=36119>
佐藤さやか, 山口創生, 清澤康伸, 大島真弓, 坂田増弘, 伊藤順一郎: デイケアにおける援助付き雇用の実践と成果 . デイケア実践研究, 査読無, 18(2) : 37-43, 2015.
<http://www.daycare.gr.jp/05-report-01.shtml>
佐藤さやか: 地域精神保健・リハビリテーションと生活支援 . 臨床心理学, 査読無, 15(1) : 49-53, 2015 .
<http://kongoshuppan.co.jp/dm/8085.html>
佐藤さやか, 吉田光爾, 伊藤順一郎: 訪問型精神科医療の今後の展開 . 精神科, 査読無, 25(6) : 649-653, 2014.
<http://www.kahyo.com/brand/b-SE201412-256>
伊藤順一郎, 坂田増弘, 佐藤さやか: 地域における統合失調症治療に必要な構造とスタッフ技術 - 国立精神・神経医療研究センター病院地域精神モデル医療センターのリフォームの過程から - . 精神神経学雑誌, 査読無, 116(6) : 505-512, 2014 .
<https://journal.jspn.or.jp/PastContent?year=2014&vol=116&number=6&mag=0>
Sato S, Iwata K, Furukawa S et al.: The effects of the combination of cognitive training and supported employment on improving clinical and working outcomes for people with schizophrenia in Japan. Clinical Practice & Epidemiology in Mental Health, 査読有, 10: 18-27, 2014.
doi: 10.2174/1745017901410010018
Matsuda Y, Sato S, Hatsuse N et al: Neurocognitive functioning in patients with first-episode schizophrenia 1 year from onset in comparison with patients 5 years from onset. Int J Psychiatry Clin Pract, 査読有, 18(1):63-69, 2014.1.
doi: 10.3109/13651501.2013.845220
〔学会発表〕(計6件)
Sato S, Ikebuchi E, Yamaguchi S, et al: Effects of cognitive remediation and supported employment for people with severe mental illness in Japan_a randomised controlled trial. 5th International Congress on Schizophrenia Research, Coloradoaprrings, April 1 2015.
Sato S, Yamaguchi S, Taneda A, et al : Thinking Skills for Work – Cognitive

rehabilitation and supported employment moderated by “Cogpack™”. 12th World congress for World Association for Psychosocial Rehabilitation, South Korea, 2015.11.4.
佐藤さやか: 地域心理臨床に認知行動療法はいかに貢献できるか - 地方で実践と研修を充実させるには - . 日本心理臨床学会第34回秋季大会, 兵庫, 2015.9.18.
Sato S, Yamaguchi S, Shimodaira M et al: Effects of the job assistance which combined cognitive remediation and supported employment for people with severe mental illness in Japan. 16th Pacific Rim College of Psychiatrists Scientific Meeting, Vancouver, 6th October, 2014. (Best Poster Award)
佐藤さやか, 市川健, 山口創生他: 障害者就業・生活支援センターにおける精神障害者への就労支援に関する全国実態調査(最終報告). 日本精神障害者リハビリテーション学会 第22回いわて大会, 岩手, 2014.10.31.
Sato S, Iwata K, Furukawa S et al: The examination on clinical characteristics of schizophrenia that contribute to the effects of cognitive remediation therapy using the “Cogpack” software. American Psychiatric Association 166th Annual Meeting 2013, San Francisco, US, 2013. 5. 21.
〔図書〕(計0件)
〔産業財産権〕
○出願状況(計0件)
○取得状況(計0件)
〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

佐藤 さやか (Sato, Sayaka)
国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所社会復帰研究部・室長
研究者番号: 20450603